

◆9.12キャンペーン

学校、家庭及び地域社会の教育の在り方を見直し、これからの時代に生きる子供達の望ましい人間形成を図る点から、1992年9月12日(土)より毎月第2土曜日が休業日となる。その最初の休業日を記念して、文部省生涯学習局が9.12キャンペーン運動を展開、当協会でもこの運動に賛同し東京と松山の三越で、「家庭の中から音楽を、家庭の中に音楽を」をテーマにホームコンサートを開催する。

◎9月12日(土)PM1:00~1:30, PM3:00~3:30 於：日本橋三越中央ホール  
出演者・中島大臣(父)昌子(母)彩(中1) 慧子(小4) トランペット 他  
・古閑裕康(中3) 敬英(中2) 久美子(小6) 智子(母) リコーダー 他  
・小川亜希(小4) 薫(4才) 典子(母) ピアノ  
・根津昭義(父) 栄子(母) 理恵子(小6) バイオリンとピアノ 他

松山三越の出演者は下記へお問合せ  
問合せ：東京 03 (3944) 1583 沢崎  
：松山 0899 (41) 1277 尾古

◆コンペ地区予選のポスターJR東日本の主要駅で掲示

B全版の1992PTNAピアノコンペティション地区予選の広告が、JR東日本の各駅で不定期に掲示され、駅利用者の目を引いた。下写真は山手線新大久保駅のホームにて。



◆平成4年度笹川賞、吹奏楽曲・合唱曲作品募集

財団法人日本国民音楽振興財団の主催による「笹川賞」の募集を行なっている。部門は、演奏時間4分以内の吹奏楽曲、4~7分以内の合唱曲。第1位には各部門1名に100万円が贈られる。応募締切は平成4年10月31日(土)当日消印有効。問合せ先：☎03(3580)8321 笹川賞選定委員会

◆根津理恵子さん御両親の根津昭義

・栄子さんとコンサートで新聞紙上に左記の9月12日の三越でのコンサートに出演する根津さん御一家は、4月19日千葉県市川市で音楽会を開催。毎日新聞他に紹介された。次頁新聞記事参照

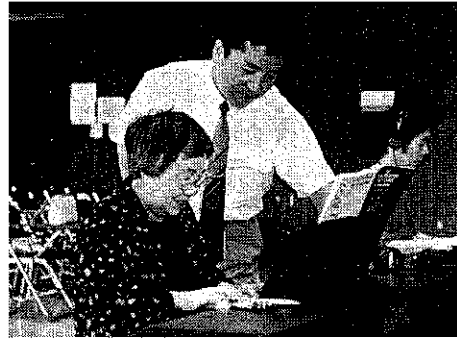
◆浦和市実年ピアノ教室軌道に

前号でご紹介した浦和中央公民館での全国初の実年ピアノ教室がよいよスタート。朝日新聞の埼玉版に記事が掲載された。今後全国への拡りを期待したい。下新聞切りぬき参照

享月 日 葉斤 辰日 1992年(平成4年)6月28日 日曜日

実年ピアノ講座

浦和



ただ美しい旋律が、午前、買い物袋に保護を入れたの静かな会話を流れていき止端、いずれもが全神経を集中させ、真剣な表情として居る。定年退職した若せラーマ

薄れかけた自演の夢 応援

浦和市民五自の中央公民館

全神経指に熱意あふれ

人たちに、公民館でピアノを教える課程が、全国で初めて登場した。子供のためのピアノは手の届かない高難易度。弾く癖がいくために講師に交



グループで楽しみながら、ピアノが弾けるようになった  
浦和市民五自の中央公民館で

民間ピアノにおがれながら、くのは夢のまた夢でした。らも、習う時間も機ももなく、和音をものこしたばかりの女ただ動いてきた世代。そんな 性の目が輝く。

五十歳以上が対象の「実年ピアノ」のためのピアノ講座。今年五月、一回で半年間、文部省生涯学習振興課と全日本ピアノ指導者協会が三年がかり

通達を出すと、一回千円を要することにされた。公民館活動で金を取ったことはなく、敬愛された。一人が来ることは増えない」とも

三十人の定員は百三十五人が応募、みんなに共通する思いがあった。音楽より興味が精いっぱい、時代の育った。そして、子供に買ったピアノ

は、みんなが成長した後、ふたが閉じられたまま。何とかなるが、今更りに行く勇氣はない。公民館で、グループでやるのなら自分もできるかも。アンケートで聞けたい曲として挙げられた一位は「乙女の祈り」だった。抽選会で講師が披露したとき、泣きながら聴き入る人かか

◆本部主催の1992PTNA課題曲公開レッスンA2・A1・C級開催



去る6月14日(日)、東京巣鴨の東京音ホールにおいて5月24日(月)のB・D級、デュオ部門に引き続き、本部主催の'92ピティナ・ピアノコンペティション課題曲公開レッスンが開催された。講師はA2・A1級江崎光世、C級二宮裕子の両先生。とても有意義な講座で、受講者・参加者の方々は深い感銘を受けたようだ。特に、A2・A1級をご指導下さった江崎光世先生の講座の冒頭にお話された言葉が大変印象深かったので、ここに一部ご紹介する。(上写真参照)

「音楽というのは同じ感じ方というものはないと思います。人によって全然感じ方が違いますし、顔が違うように弾き方が違って当然だと思います。だからこうしなければいけないとか、こうあるべきだということに、あまり決め付けたくないという気がします。今日私がお話する、皆さんと一緒に聴かせて頂いて感じたことは、まったく私の個人的な見解であって、それが絶対だということに思わないで下さい。また多分、生徒さんの先生やお母さまがほとんど毎日注意していらっしゃることを、また私が繰り返して申し上げることが非常に多いと思います。子供というのは言い方が変わったり、全然違う人に言われると、また新鮮な感じがあったりして“また同じ事言われたでしょう”ということでも、それが刺激になることは非常にあると思いますので、そういうことを参考にして下さい。

それから、そのお子さまにとって、これは使ってみようと思えたらどうぞ、それはお使い下さってかまいませんけれども、うちの子には合わないと思ったらどうぞお捨て下さい

ませ。そういう柔軟な耳で今日は聴いて頂いて、一緒に皆さんと勉強させて頂いたら私も本当にありがたいと思っております。私の個人的な解釈と見解だということをどうぞお忘れのないようお願い致します。

プログラムを見ますと、同じ曲の方が何人かいらっっしゃいます。ひとりずつよりも、一緒に弾いて頂いて、みんなお互いに顔が違うのと同じで、演奏も違うと思いますので、違いを通して、ではどのようにしたらいちばんいいのかなというように、皆さんと一緒に考えていけたらと思います。自分が弾いている曲を相手に弾かれると、何を言われているかわかるということが非常にあると思います。自分が注意されている時には意外と解らないけれども、相手が注意されていると、ああ、なんだということが解るものです。そういう利



写真：C級・二宮裕子先生のレッスン

点を上手に利用するだけで、けっして比較したりという意味ではなくて、お互いに違いを聞き取る耳をこの段階から養ったらどうかと、私はこの方法をもう何十年も続けています。」

◆デイリースポーツ「紙上広告コンクール」でコンペ地区予選の広告が優秀賞受賞



写真：表彰式にて府を受賞し、協会の木部高彦政子氏

スポーツレジャー紙「デイリースポーツ」が主催する紙上広告コンクールは今年で第20回を迎え、ピティナは産報通信社の御依頼でコンペティション地区予選の広告で参加、見事優秀賞を受賞、去る7月17日(金)、銀座東武ホテルに於いて表彰式が行なわれた。審査は読者からの投票数の多かった順に決定され、金賞1点、銀賞2点、銅賞3点、優秀賞10点が受賞した。今回138点の応募があり、ピティナは573票の得票があった。

1992年(平成4年)4月7日(火曜日)



地元で初のコンサートを開くN響の根津さん一家

市川に住むN日長交響楽団のバイオリニスト根津オリシを始め、東大理学部入学、昨年は第四十五回全交響楽団員と新栄子さん、卒業後、東京芸大に入學するヨシ、長女理恵さん(二子)という確かな持ち主。東京大で一位に入る資格(富貴小六年)の音楽一子さんは武蔵野音楽大卒のピアニストで、県立高校教諭(ファミリーコンサート)を兼ねて後進の指導をしながら「ファミリーコンサート」から室内楽で活躍中。一人娘音楽ファン根津の熱心な勧めで、地元で初のコンサートを開く。地元で初のコンサートの開催に、両親の指図で三歳からピアノ、バイオリンを始め、五歳からピアノを集めている。

市川の。ピアノ曲など披露  
根津さん

N響一家地元で初演奏会

教育ひろば

第一節が栄さん(ピアノ)の「ワルツ」を、新曲(後編)の丸山利恵さんの「ワルツ」を演奏する。栄さんは「親しまれている曲も多いので、ファミリーで気軽に演奏して欲しい」と話している。入場料は大人千円、高校生以下千円、問い合わせは、ユース企画(0473-32469)へ。

●大澤和子正会員音楽教育国民会議  
主催のフォーラムのパネラーに

音楽関係の全組織を結集し、1986年生まれた音楽教育国民会議（理事長 高萩保治氏、会長 櫻内義雄氏）では、音楽教育フォーラムを、半年一度の割合で開催しているが第5回は、当協会本部近くの荒井楽器本店で開かれた。

主題は「今、音楽教育に活路をもたらすものは何か」企画者で提案者は、木村博文財団法人日本音楽教育文化振興会事務局長。

パネラーは、上杉紅童（高崎芸術大教授・リコーダー奏者）、古川和（毎日新聞社編集員、合唱研究活動）松本伸二（日本音楽家ユニオン代表運営委員 ピオラ奏者）そして当協会正会員の大澤和子（新日本音楽療法研究所研究員）（以上敬称略）の4名。全日本吹奏楽連盟関東支部長の杉山顯司氏の司会で、パネルディスカッションが3時間余りに亘ってくりげられた。



上写真：左から2人目が大澤和子正会員  
下写真：フォーラムの様様

ピアノという一つの枠の中で音楽教育を論ずるのではなく、広い分野での音楽教育談議は、誠に有意義なものであった。

このパネラーの先生方の発言集ご希望の方は、返信用封筒をそのむね明記の上、当協会本部編集部にお送り下されば、コピーをお送りする。

なお、音楽教育国民会議第3回フォーラム（1991年10月15日於 東京音大）に、福田靖子専務理事もパネラーを務められている。



●佐藤裕子正会員  
「ナディア・ブーランジェとの対話」翻訳上梓  
佐藤裕子正会員  
（洗足学園大講師）

は、晩年のナディア・ブーランジェ女史の弟子としても知られるが、このほど、ブルノー・モンサンジャン著「ナディア・ブーランジェとの対話」の翻訳を完成。

この夏、音楽之友社より出版される。右上写真参照。ブーランジェ女史は、大物作曲家を育てた教育者として知られ、20世紀音楽に重要な役割を果たした女性で、そのインタビュー集。

女史と親交のあったリバッティ、ストラヴィンスキー、弟子のバークリー、コーブランド、フランセ、マルケヴィチなど、その著の中に出てくる音楽家たちの名を知るだけでも意義がある書と云えよう。

音楽教育に携わる者としてぜひ、御一読をお薦めする。有名楽器店、ピティナ購売部でも扱っている。

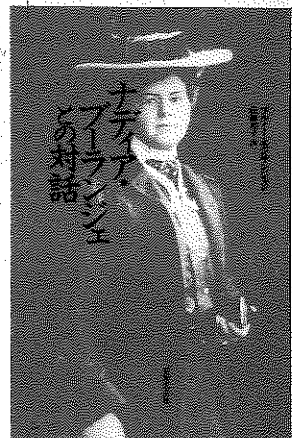
●藤田めぐみ正会員  
第23回モントリオール国際音楽コンピアノ部門で4位  
昨年ピティナ・特級で銀賞を受賞、本年2月22日ジョイント・リサイタルでも好評を博したので、ご記憶の方も多と思う。



今回のモントリオール国際コンクールは市350周年記念もかねていたため、今迄以上に大規模な催物となり、そこで4位を受賞されたことは快挙といえよう。

●ピティナっ子カワイ音楽コンクールでも上位を独占

第25回カワイ音楽コンクールのピアノ部門の全国大会が、去る7月22日(水)東京イイノホールで開かれ、小・中学生両コースを通じて、大賞を小3の高橋いつきさんが、金賞を中1の丹 千尋さんが、受賞された。尚中3迄のAコースで、金井杏奈さん(中2)が銀賞を受賞した。



ナディア・ブーランジェとの対話

●本多昌子演奏研究委員二人のまさ子によるリサイタル9月27日に

長澤昌子さんの名で(第1回ピティナ金賞受賞)知られた昌子さんが、この4月結婚され本多昌子さんに。

今年も、田中雅子さん(バイオリン)とジョイントリサイタルを開催。

9月27日(日) 6:30PM

於：上野の旧東京音楽学校演奏堂  
曲目：ドビュッシー/喜びの鳥  
シューベルト/ます 他

問合せ 03(5684)3276 本多

●細山田亜矢子学生会員徳山市で、ピアノリサイタル

ケルン音大に留学中の徳山出身の細山田亜矢子さんが、7月21日アイバンク理解求め“あいのコンサート+1”に出演する。プラス1とは、音楽に加えて福祉について考えるという意味で、広島在住の音楽家市川順子さんが、企画・構成・出演もする文字どおりのあいのコンサート。

当協会の迫田時雄正会員（武蔵野音大助教授）も、ピアノ伴奏にかけつける。氏は点字を使って目の不自由な人の指導も実践しておられる。

7月26日(日)には、徳山市文化会館で、細山田亜矢子ピアノリサイタルも開催。夏休みで一時帰国を利用しての演奏会。新聞にとり上げられるなどその成果が期待されている。



◆のびるピティナに期待の声が！

バブルの影響で経済全般が停滞さ  
みの中、当協会運営は活発化して  
おり関係者各位から期待の声が高い。

- ・第16回ピティナ・ピアノコンペティション参加者数昨年度より7.6%アップ
- ・新規事業の実年音楽教室の生徒募集30名のところ135名が応募
- ・平成4年度4月1日より6月30日迄の新入会者数257名
- ・'92全日本電子楽器教育研究会にピティナ本部事務局スタッフが、クラビオーケストラを演奏。  
8月4日(火) 5:30PM  
東京こまばエミナース  
コンクール直前のこの時期、忙中に開ありと、モーツァルト／アイネ・クライネ・ナルトムジーク、戴冠式を演奏。
- ・賛助会員10口60万円には、ヤマハ、カワイ、東京銀行の三社が、連ねておられたが、今回 コルグ株式会社も加わって下さる。
- ・エッソ賞(昨年100万円)が、150万に増額になる。エッソ石油株式会社のみますますの御発展を！
- ・J R東日本・第一生・J R東日本グループの協賛により、ピティナクラシックコンサート8ヶ所で開催。J R東日本地区の駅、車内広告もして頂けるようになった。
- ・当協会某役員より、今年も60万円のご寄付があった。御芳名はいずれ公表させて頂きたいと思う。
- ・他益信託の導入  
これは先の総会でも決議されたものであるのです、会員の皆さまからのご協力を切望する。56頁も参照。

- ・第4回全国生涯フェスティバル(10月31日(土) 於：仙台)の開会式  
音楽協力を今年もピティナが担当

◆ピティナオリジナルバック作成中

1992ピティナ・ピアノコンペティションの全国決勝大会に出場された方全員に贈られる参加賞が、今年はとてかわいらしいピティナオリジナルバックに入れて授与される。このオリジナルバックは今売れっ子の吉村明子さんのデザインによる。

全国決勝大会終了後、希望者に販売する予定。色は明るいピンク系で、とにかくかわいらしい。お楽しみに!!



PTNA

Piano Competition

(上：オリジナルバックのデザイン)

◆活躍する会員の皆さん

- ・藤原亜津子正会員 ヤマハ発行のピアノ レッスン ライフに、ピアノプレイヤーを使用して教育効果あげておられる体験が、インタビュー記事として連載された。
- ・原 瑞穂 6月25日ルーテル市ヶ谷センターでジョイントリサイタル

- ・浜中康子正会員 9月15日(祝)2:30 東京津田ホールで「ルイIV世の祝祭」でバロック舞踏を演奏。

〈お願い〉 会員の皆様のご活躍を御紹介したいので、どんなことでも、75日以前にお知らせ頂きたい。

◆横山美里学生会員フルスカラシップを得て英国王立音楽大学に留学

昨年のピティナ・ピアノコンペティションで、G級金賞・英国王立音楽大学賞を受賞した横山美里さんが、フルスカラシップを得て、8月1日に日本を出発する。

みのりある留学生活を送られるようお祈りしたい。今年の英国王立音楽大学賞は、誰の手に？

◆今年の海外招聘審査員は、英国・アメリカから。個人レッスンも企画中。

例年ピティナ・ピアノコンペティションでは、海外より著名な教授を招き、ご審査をお願いしているが、今年は、英国よりクリストファー・エルトン氏 (Prof. C·Elton)、アメリカより、サイモア・バーンスタイン氏 (Prof. S·Bernstein)、ハンガリーより、ジョルジナードル氏 (Prof. G·Nádor) を迎える。

尚、上記の横山美里さんは英国でエルトン教授に師事する予定である。

ピティナ・ピアノフェスティバルでの公開レッスン(5~9頁参照)の他、個人レッスンが予定されている。是非この機会に、世界の名教授のレッスンを受けられたら如可だろうか。

◎個人レッスンのお申込みは  
03(3944)1583 黒木

◆地区本選・全国決勝大会・夏期ピアノフェスティバルでお会い致しましょう。

この会報がお手元に届く頃は、大方の地区予選が終り、地区本選が開催されている頃であろう。

残念ながら本選行きを果せなかった方も、幸運にも本選や全国決勝大会進出の切符を手にされた方も、この夏休みを有意義に過ごされるようお祈りしたい。

また、地区本選や全国決勝大会、夏期研修会の会場でお会いできたら幸である。御健康にお気をつけて！

会費は自動引落しで!!

- ・送金を忘れません。
- ・送金手数料が不用です。

電気代・水道代・新聞代など、自動引落しの時代です。あなたも、すでにこのシステムをご利用されていることでしょう。ピティナの会費も、ぜひ自動引落しのお手続きを、お願い致します。今年度会費を自動引落しで納入された方は、3月26日現在744名です。あと2851名の方が郵便振替で、ご送金されました。将来は自動引落し納入のみになる予定です。